

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

3222 2026 年 8 月 16 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 13 主日)

司 式 者 井 殿 準

奏 楽 者 伊 東 永 子

前 奏		奏 楽 者
招 詞	詩編 29:1～2	司 式 者
讃 美 歌	8 「心の底より」(1、2、4 節)	一 同
聖 書	マルコ 10:46～52 (新 P. 83)	司 式 者
使徒信条	(93-4-A)	一 同
祈 祷		司 式 者
讃 美 歌	491 「永遠の光よ」	一 同
説 教	「主が呼びですよ」	司 式 者
祈 祷		〃
讃 美 歌	520 「真実に清く生きたい」	一 同
献 金		〃
主の祈り	(93-5-A)	〃
頌 栄	29 「天のみ民も」	〃
祝 祷		司 式 者
答 唱	40-6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～		
報 告		司 式 者
讃 美 歌	92 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

7 月 26 日の説教要旨

「互いに必要な私たち」

(I コリント 12:14～26)

バングラデシュにあるテゼ・ハウスは、身体障がいや知的ハンディを持つ人、少数民族、ストリート・チルドレンを支える活動に取り組んでいるが、バングラデシュで活動するテゼのブラザーは、介護を受ける者も介護をする者も、お互いが必要とし合っていると述べている。障がい者が介護者を必要とするのは言うまでもないことだが、介護者は介護することを通して、霊的に、また人間的に豊かに成長させられ、優しさに満ちた本来の自分を取り戻すことができるというのだ。人間とは皆、お互いにお互いを必要とし合っている。もし、皆がそのことに気づくことができたなら、どれほど素晴らしいことだろうか。

今日の聖書の箇所の中で、パウロは、教会を「体」に譬え、そこに集う一人一人は同じ(「一つの部分」)でなく、皆違っている(「多くの部分から成る」と語る。皆が同じでは体として成り立たず、それぞれに大切な働きをしているのであって、一人一人がそれぞれに大切なのだとパウロは述べる。また、体の中には見栄えの良い部分とそうでない部分、強そうに見える部分、弱そうに見える部分があるが、その中で弱く見える部分こそが重要なのだとパウロは告げる(22 節)。要らない人など一人もいない。そして、「要らない人などいない」ということは、「我々はお互いを必要としている」ということでもある。

人は皆、お互いを必要としている。我々は、普段なかなかそのことに気づくことができない。しかし、互いに助けが必要な者となった時、その場所には大きな喜びと平和が訪れる。テゼのブラザーはそのように報告しているが、それこそが神がこの世界をお造りになった時に意図していた世界なのではないだろうか。

今日の社会は「強さ」や「力」、「早さ」ばかりを求めて、「弱い」ということを忌み嫌うが、聖書はそれを否とし、弱く見える部分こそが重要なのだと語りかける。我々は、この語りかけに耳を澄まし、お互いを必要とし合っていることを覚えつつ、いよいよ互いに助け合い、地上に喜びと平和が満ちあふれることを目指して歩んで行こう。